

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語A

□市の平均正答率は69%だった。（県：72% 全国：70.7%）

①■「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことに課題がある。

（市：26.6% 県：36.3% 全国：35.5%）

②■同じ領域の、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。

（市：54.1% 県：58.0% 全国：56.0%）

③□「話すこと・聞くこと」の領域では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話すことは、9割近くの児童ができている。

小学校：国語B

□市の平均正答率は55%（県：56% 全国：54.7%）ほぼ県、全国と同等の結果だった。

①■「書くこと」の領域において、目的や意図に応じて内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題がある。

（市：14.2% 県：14.2% 全国13.5%）

②■「話すこと・聞くこと」の領域においては、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。

（市：38.2% 県：35.5% 全国33.8%）

③■「読むこと」の領域において、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むことに課題がある。

（市：42.9% 県49.4% 全国49.4%）

④□全8問中すべての問いで無回答率が全国に比べて低くなっている。記述式の問題において、県や全国の正答率を上回っている。自分なりの考えを持って書けている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語A

- ①文や文章を書く際には、主語と述語との関係に注意するなど正しく書くことの大切さに気付かせることが重要である。そのためには、日記や作文など**書いた文章を必ず読み返す習慣**をつけるようにしたい。文章を書く時だけでなく、読んだり話したりするときにも主語・述語の関係や修飾・被修飾の関係など文の構成について理解させるように、学習活動を工夫することも考えられる。
- ②敬語を適切に使うことができるようにするためには、様々な場の状況で敬語を使うことに慣れることが重要である。目上の人と話をするときや学校行事でお礼状や招待状を書いたりするとき、**相手と自分との関係を意識しながら**敬語を使うことに慣れるように指導することが大切である。
- ③漢字や語句文法などの確実な習得にはくり返し練習が不可欠である。繰り返し学習できる環境を今後も学校全体で整えることが大切である。

小学校：国語B

- ①目的や意図に応じ、複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係付けて理解したり表現したりする際には、**必要な語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして、図示しながら整理して考えさせるとよい**。情報の何をどのように取り上げて詳しく書けば、自分の考えが明確に伝わるかどうか意識して書かせるようにしたい。
- ②話し合いでは、司会者・提案者・参加者などそれぞれの役割を理解し、話題に沿って発言しているか、その発言は話し合いの流れを踏まえているかなど、適時判断しながら話し合いを進めるようにすることが大切である。話を聞く際には、話し手の立場や意見の理由などを短い言葉でメモをとれるようにしたい。自分の意見を話す際には、相手の意見との共通点や相異点を整理した上で、共感した内容や納得した事例を取り上げるなど自分の考えを筋道立ててまとめることができるように工夫することが必要である。
- ③伝記を読んで自分の考えをまとめるためには、目的に応じた適切な伝記を選んだり、複数の伝記を比べて読んだりすることで人物の生き方や考え方をより深く知ることができる。本や新聞、雑誌、インターネットなどから目的に応じて適切な資料を自ら選んで読むような経験を積み重ねていくことが大切である。
- ④単元を通した言語活動において、書く活動を取り入れ自分の考えを表現させる学習を積み重ねてきた。それが無回答率や記述式での成果を生んだと考えられる。今後もそういった学習の積み重ねを大事にしていきたい。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- ①■「数量関係」の領域で「除法で表すことができる2つの数量の関係を理解すること」に課題がある。
- ②■「数と計算」の領域で「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すこと」に課題がある。
- ③■「数と計算」の領域で「十進位取り記数法で表された数の大小について理解すること」に課題がある。
- ④■「量と測定」の領域で「単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること」に課題がある。
- ⑤■「図形」の領域で「円周率の意味について理解すること」に課題がある。
- ⑥■「図形」の領域で「 180° より大きい角を求めること」に課題がある。
- ⑦■「数量関係」の領域で「百分率を求めること」に課題がある。
- ⑧□「量と測定」の領域で「 180° の角の大きさを理解すること」は、全国平均を上回っている。
- ⑨□「数量関係」の領域で、「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること」は、全国平均を上回っている。

小学校：算数B

- ①■「図形」の領域で「敷き詰め模様の中に条件に合う図形をみいだすこと」に課題がある。
- ②■「図形」の領域で「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述すること」に課題がある。
- ③■「数と計算」の領域で「示された情報を解釈し、条件に合う時間を判断すること」に課題がある。
- ④■「数量関係」の領域で「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述すること」に課題がある。
- ⑤■「数量関係」の領域で「棒グラフと帯グラフから読み取れることを、適切に判断すること」については、全国平均を上回っているが、理解は不十分である。
- ⑥■「数と計算」の領域で「示された数量の規則性を解釈し、根拠を記述すること」に課題がある。
- ⑦□「数量関係」の領域で「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること」について、全国平均を上回っている。

2 具体的な改善方策

小学校：算数A

- ①◆伴って変わる2つの数量の関係の簡単な場合について、比例の関係を使えていないと考える。2つの量の関係を図に表しながら確認したり、実際に操作を伴う活動を取り入れたりして、実感的に理解できるようにする。
- ②◆数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えられていないと考えられる。「問題場面の数量の関係を理解する」→「関係を図や数直線に表す」→「それを基に立式する」を丁寧に指導する。
- ③◆数の大小を比較するために、どの位の数字に着目すればよいかの的確に判断できていないと考えられる。数字カードを用いて、数の大小を比べる活動を行い、十の位だけに着目すればよい場合や一の位にも着目しなければならない場合等を実際に行わせて、十進法位取りの基本の定着を図る。
- ④◆2つの量のうち、どちらを単位量として設定しているのかを的確に判断できていないと考える。式の意味を問題場面や図と関連付けて捉えられるように指導する。
- ⑤◆円周率が、円周の直径に対する割合であることを十分に理解できていないと考えられる。円周の長さが直径の長さの何倍になるかについて見通しを持ちながら、作業的・体験的な活動を行わせる。
- ⑥◆ 180° を超えた部分や 360° に足りない部分の大きさについて、1直角の大きさを基に検討をつけることができていないと考える。1直角、2直角、3直角、4直角を基に、○直角より大きい(小さい)と見当をつける指導をする。
- ⑦◆問題場面から基準量と比較量を正しく捉えることができていないと考える。2つの量のうちどちらが基準量になるかを図や数直線で表す活動を取り入れて指導をする。

小学校：算数B

- ①◆図形の構成要素や性質の理解が不十分であると考えられる。合同な図形を使った敷き詰め模様作りをしたり、敷き詰められた図形の中に他の図形を見つけたりする体験的な活動を取り入れて、図形についての見方や感覚を豊かにする。
- ②◆図形の構成要素や性質を基に、事柄が成り立つことを説明することができていないと考えられる。式と図を関連付けて自分の考えを説明し合う活動を取り入れ、筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明する機会を増やす。
- ③◆複数の情報を図に整理して表し、考えることができていないと考えられる。与えられた情報を、図に数量を書き加えながら表し、数量の関係を的確に捉えることができるようにする。
- ④◆グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取ることができていないと考えられる。読み取った情報を複数の観点で分類整理しながら話し合う活動を取り入れる。その際、グラフのどの部分に着目して情報を読み取ったのかを説明し合い、他者が読み取った情報とグラフを関連付けて解釈することができるようにする。
- ⑤◆一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフの情報を正確に読み取れていないと考えられる。グラフの縦軸・横軸の数値に着目して注意深く情報を見取る指導をする。
- ⑥◆複数の情報から、枚数、本数、個数等の数量を解釈し関連付けて論理的に考察できていないと考えられる。問題場面を図に表して法則性を見だし、用いた数量の意味、式の意味、答えの意味などの根拠を明確にする活動を取り入れる。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1 調査結果の分析

小学校：理科

- ①□「生命」「科学的な思考・表現」の問題で、「人の腕が曲がる仕組みについて示された模型を使って説明すること」について、全国平均を上回っている。
- ②□「物質」「科学的な思考・表現」の問題で、「食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶこと」について、全国平均を上回っている。
- ③□「エネルギー」「科学的な思考・表現」の問題で、「回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に検流計の針の向きと目盛りを選ぶこと」について、全国平均を上回っている。
- ④■「地球」「科学的な思考・表現」の問題で、流れる水の働きによる土地の侵食について、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する力に課題がある。
- ⑤■「物質」「科学的な思考・表現」の問題で、食塩水の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善しその内容を記述する力に課題があり、無解答率も高い。
- ⑥■「エネルギー」「科学的な思考・表現」の問題で、太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用する力に課題がある。

2 具体的な改善方策

小学校：理科

- ①正解の番号を選べていても、その理由を2つの条件を満たすように記述することができなかったことから、解答の条件を読み取る力に課題があると考えられる。さらに、自然の現象を、量的な関係や時間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係づけたりして分析考察し、その内容を記述できるようにする指導に取り組む。
- ②問題に正対したまとめができるようにするために、問題を確認し、結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかを検討することが必要である。そのためには、問題解決の様々な場面で、自分の考えを表現したり、見直したりするなどの話し合いができるようにする指導にも取り組む。
- ③授業では、子どもたちが知的好奇心や探究心を持ち目的意識を持った観察実験を行う。そして、その結果を整理し考察する活動を位置づける。
- ④問題解決の力を育てるために、3年生では「比較する」、4年生では「関係づける」、5年生では「条件制御」、6年生では「推論」の能力の育成を図る。
- ⑤家庭学習は、その日の学習をもとにもう一度、観察・実験の結果を整理し、考察する時間を設ける。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語A

全32問（選択式21問・短答式11問）①市平均正答率75%（選択式76.3%・短答式73.9%）。話すこと・聞くことの領域においてのみ、県・全国値を上回った。正答率が県・全国値に達していない問題が21問、また正答率が7割に達していない問題が10問あった。

②「慣用句の使用について理解し、条件に即した文を書く」問いの正答率が15.0%であることから習得させる知識に関する指導の工夫が引き続き、課題として挙げられる。

中学校：国語B

全9問（選択式6問・記述式3問）

①市平均正答率60%（選択式64.4%・記述式49.8%）で、話すこと・聞くことの領域で、県・全国値を上回った。

②設問ごとでは、県・全国値を下回ったものが6問（全国は5問）、正答率が5割を下回った設問が2問ある。

③特に「文章から必要な情報を探し、それらを要約し理由を書く」問いは9.4%ときわめて低調である。より具体的な評価規準に基づき、適切な評価活動を行い、一人一人の課題に沿った指導が今後とも不可欠である。

2 具体的な改善方策

中学校：国語A

正答率が低かった問題は、「主語を明らかにした上で」という指示を見逃した回答が多かったようである。「心を打たれた」という慣用句の理解度もさることながら、問題そのものの情報が多いときに、いくつか取りこぼす傾向にある。

また、**8**の問題で、正答率が7割に達していないものが6問ある。「せきを切ったように」の「せき」を選択する問題は26.8%、「折り合いをつける」の「つける」を選択する問題は58.7%「ひとえに～のおかげです」の「ひとえに」を選択する問題は62.9%と軒並み低調である。引き続き語彙力の向上、特に慣用句やことわざ等の伝統的な言い回しに親しむ学習が必要である。

正答率9.4%の1三の「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く問題についての分析は以下の通りである。ここでの理由は二つの内容で構成されていた。それは接続詞「また」でつながっていることにより二つあることが分かる。接続詞の役割を理解していれば、文章の構成正しくつかむことができた。また、問いに対し必要十分な内容を捉えることができていない。必要な部分、切り捨てて良い付加的な部分を見極める力がついていない。段落毎の要約をしたり、段落相互の関係を正しくおさえたりして、まとめ毎に役割を捉える指導が必要であろう。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1. 調査結果の分析

中学校：数学A（知識）

全問題数／36問（選択式18問・短答式18問）

- ◆平均正答率63（選択式58.7・短答式67.7）
- ◆領域別・観点別・問題形式別のすべてで、県・全国の平均正答率を下回っている。
 - ・全国・県と比較して正答率が上回る → 3問
 - ・全国と比較して正答率が上回る → 5問
 - ・県と比較して正答率が上回る → 2問
 - ・全国・県と比較して正答率が下回る → 26問
- ◆無解答率（平均）
 - ・杵築市3.8%、県2.9%、全国3.3%
 - ・無解答率が全国・県より多い。

特に課題のある問題 [全国との差]

市平均正答率が、特に低い問題

- ・等式 $S = 1/2 a h$ を、 a について解く設問 [-13.9]
- ・一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの、 y の増加量を求める設問 [-10.6]
- ・対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ設問 [-8.9]
- ・ $\triangle ABC$ と $\triangle DEC$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ設問 [-8.6]
- ・点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面に示す設問 [-7.9]
- ・長方形 $ABCD$ を点 A を中心に時計回りに 90° だけ回転移動した図を書く設問 [-7.4]

数学A		杵築市	差	
			県	全国
全体		63.0	-3.0	-3.1
領域別	数と式	70.3	-3.7	-0.8
	図形	65.0	-3.5	-4.1
	関数	51.5	-2.7	-4.0
	資料の活用	60.1	-1.2	-3.4
観点別	数量や図形についての技能	67.5	-3.4	-2.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.5	-3.0	-2.8
形式	選択式	58.7	-2.2	-2.8
	短答式	67.7	-4.1	-3.0

※全体の杵築市と県は整数値

中学校：数学B（活用）

全問題数／14問（選択2問・短答7問・記述5問）

- ◆平均正答率41（選択56.6・短答51.0・記述21.8）
- ◆正答率は14問すべて全国正答率、県正答率を下回る。
- ▽無解答率（平均）
 - ・杵築市12.7%、県12.5%、全国12.6%
 - ・全国、県とほぼ同じ

特に課題のある問題

- ・平行四辺形 $ABCD$ を正方形 $ABCD$ に変えたときの四角形 $EBFD$ がどのような四角形になるかを説明する設問 [-10.8]
- ・全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲 F が選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する設問 [-9.0]
- ・放送計画で、1日目が A 、2日目が B になる確率を求める設問 [-7.7]
- ・平行四辺形 $ABCD$ の外側に2つの点 E 、 F を取っても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形であることの証明を完成させる設問 [-7.7]
- ・全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒の割合を求める設問 [-7.3]

数学B		杵築市	差	
			県	全国
全体		41.0	-4.0	-5.9
領域別	数と式	47.5	-2.9	-3.9
	図形	38.8	-5.0	-7.9
	関数	49.3	-3.7	-3.5
	資料の活用	31.2	-4.5	-6.8
観点別	見方や考え方の技能	39.5	-4.1	-5.6
	技能	46.1	-3.5	-5.2
形式	選択式	56.6	-4.5	-4.9
	短答式	51.0	-3.5	-5.2
	記述式	21.8	-4.4	-6.1

※全体の杵築市と県は整数値

2. 具体的な改善方策

中学校：数学A（知識）

2(4) 等式 $S = 1/2 a h$ を、 a について解く設問 / 市34.3 県45.3 全国48.2

(趣旨) 具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。

(改善方策) 目的に応じて等式を変形することができるようにする。

- ・等式の性質を操作活動を取り入れた活動で理解させる。
- ・目的に応じて変形するためにも、計算過程を書かせる指導を徹底する。

1 1(1) 一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの、 y の増加量を求める設問 / 市34.7 県41.4 全国45.3

(趣旨) x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる。

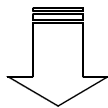
(改善方策) x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができるようにする。

- ・対応表で増加量を確認する活動を取り入れ、増加量の考えや意味を理解させる。
- ・代入や正負の計算などの計算力を、普段の授業の中で徹底して指導する。

8 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ設問 / 市36.6 県42.0 全国45.5

(趣旨) 証明の必要性と意味を理解している

(改善方策) 帰納と演繹の違いを理解し、証明の必要性と意味について理解を深められるようにする。



- ・証明の必要性と意味についての理解を深められるように指導する。
- ・演繹的な推論による説明の必要性のある課題を設定し、説明することで理解を深める。

◎基礎・基本の定着→新大分スタンダードの実践。小テスト(確認)や課題、数学用語の意味と理解。

◎数学の見方や考え方(思考力)の向上→計算や思考過程の記述、生徒同士の教え合い活動など。

◎問題対応力の育成→問題に対する読解力育成。定期テスト等で活用。

中学校：数学B（活用）

4(3) 平行四辺形 $ABCD$ を正方形 $ABCD$ に変えたときの四角形 $EBFD$ がどのような四角形になるかを説明する設問 / 市31.5 県39.2 全国42.3

(趣旨) 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。

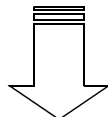
(改善方策) 付加した条件の下で、見出した事柄を数学的に表現できるようにする。

- ・図形の性質や条件を、図を書く活動等を通して、理解・記憶させる。
- ・前提(仮定)と結論を明確にし、それが正しいかどうか証明できるように指導する。
- ・問題を読み解く力を付けるためにも、授業の中で丁寧に扱う。

1(3) 全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲 F が選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する設問 / 市27.2 県33.2 全国36.2

(趣旨) 起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

(改善方策) 判断の理由を数学的な表現を使って説明できるようにする。



- ・授業で、生徒が説明したり教え合う場面を設定し、論理的な説明の組み立てに慣れさせる。
- ・身の回りの事象に対して、数学を利用することの意義や数学の良さを実感させる。

◎数学B(活用)は、全ての設問で正答率が全国・県を下回っている。中でも記述式の正答率が特に低い。数学的な表現を用いて説明し、伝えあう活動を重視した授業の充実が求められる。

◎全国学力・学習状況調査「記述式」問題を参考に、説明に必要な要素を明確にして授業を行う。

事柄・事実の説明～「○○ならば△△である」の様な形で「前提○○」「結論△△」の両方を記述

方法・手順の説明～「用いるもの」を明確にした上で、その「用い方」を記述。

理由の説明～「○○であるから、△△である」の様な形で、根拠と成り立つ事柄の両方記述

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1 調査結果の分析

中学校：理科

- ①全体の平均正答率は、全国に比べて－0.1Pであり、杵組みとしては、主として「活用」に関する問題が、全国に比べて－0.9Pである。
- ②評価の観点においては、「科学的な思考・表現」が、全国に比べて、－1.3Pである。
- ③問題形式では、短答式が全国に比べて－2.7P、記述式が全国に比べて－1.7Pである。
- ④活用に関する問題の約半数で、無回答率が全国を上回っている。
- ⑤「ものが見える」ことの意味や光の「反射の法則」を理解できている生徒の割合が少ない。
- ⑥1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる生徒の割合が少ない。
- ⑦反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる生徒の割合が少ない。

2 具体的な改善方策

中学校：理科

- ①その授業が「習得」なのか「活用」なのかを教師および生徒が明確にするとともに、教科書の終章や発展問題などを積極的に活用しながら、きめ細かい指導を行う。
- ②時間測定値の誤差やその範囲、天気図の読み取り方を、再度確認させる。
- ③質量保存の法則と化学反応式のモデルとの関係を説明できるよう、具体的な化学変化を例に出し、確認させる。また、P波・S波の関係を雷鳴や花火などの関係と関連づけて考えることができるよう、雷鳴や花火の現象を具体的に確認させる。
- ④問題文の文脈から答え方を把握する練習を数多く行わせる。また、「選択式については、消去法が有効手段の1つである」ということも知らせる。
- ⑤「ものが見える」ということが、「光が直接目に届いたり反射・屈折して届いたりすること」であるということを確認させる。また、反射の法則についても作図をもとに確認させる。
- ⑥「実験をするときには、1つの条件以外はそろえて比較検討する必要がある」ということを確認させる。
- ⑦「刺激とは、感覚器官を刺激するもの（光や音など）である」ことを押さえさせる。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、73.8%であり、県・全国と比べて少し低い。
- 「5年生まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に対して肯定的な回答の割合は、72.9%であり、県・全国と比べて低い。

<学習に対する興味や授業の理解度等（算数）>

- 「算数の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答した割合は、65.2%であり、県・全国と比べて少し高い。「算数は大切である」と肯定的な回答した割合は90.6%、「算数の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答した割合は79.8%で、肯定的な回答をした児童が県・全国と比べると少し低い。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」という質問に肯定的に回答した割合が88.0%で、県・全国よりも少し高い。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が72.1%で、県・全国と比べると低い。
- 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が73.0%、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が92.7%で、県・全国と比べほぼ同じか少し高い。

<学習に対する興味や授業の理解度等（理科）>

- 「理科の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答した割合は、80.7%であり、県・全国より少し低い。「理科は大切である」と肯定的な回答した割合は84.6%で県・全国とほぼ同じ。「理科の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答した割合は85.9%で県・全国よりも低い。
- 「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしているか」の質問に対して、肯定的な回答をした割合が55.4%で県・全国よりも少し高い。
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合が、71.7%で、県・全国とほぼ同じ。

<規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがあるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、81.1%であり、県・全国より少し低い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、79.4%で県・全国と比べてとても低い。
- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、84.9%と県・全国とほぼ同じ。
- 「学校のきまりを守っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、84.6%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、93.6%とどちらも県・全国と比べて低い。

<学習習慣等>

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、59.3%、「家で、学校の授業の予習・復習をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、55.8%とどちらも県・全国よりも低い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に1時間以上勉強する」と回答した割合が、57.5%であり、県・全国と比べて低い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、38.6%であり、県・全国と比べると少し低い。「全くしない」と回答した割合は、18.5%であり、県・全国とほぼ同じ。

<基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は91.4%であり、県・全国よりも少し低い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は70.4%、「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は84.9%であり、県・全国より低い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は71.2%と県・全国を比べるととても低い。

<地域や社会に関わる活動の実施状況等>

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は56.3%であり、県・全国と比べるととても低い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は14.6%であり、県・全国と比べると低い。
- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見るか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は84.9%であり、全国と比べて少し低いが、県とはほぼ同じ。

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

- 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の質問に対して肯定的に回答した割合は、77.9%で県と比べるとほぼ同じで、全国と比べて少し高い。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」の質問に対して肯定的に回答した割合は、69.5%であり、県・全国と比べて低い。

<学習に対する興味や授業の理解度等（数学）>

- 「数学の勉強は好きか」との質問に肯定的に回答した割合は、45.1%、「数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した割合は、61.5%であり、どちらも県・全国と比べると低い。「数学の勉強は大切である」と肯定的に回答した割合は、82.1%であり、県・全国と比べると少し低い。
- 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、72.8%であり、県・全国と比べるととても低い。
- 「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、60.5%であり、県・全国と比べるととても低い。
- 「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、62.9%、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」の質問に対して肯定的に回答している割合は、69.4%であり、どちらも県・全国と比べると低い。

<学習に対する興味や授業の理解度等（理科）>

- 「理科の勉強は好きか」との質問に肯定的な回答をした割合は、68.1%、「理科の勉強は大切だと思うか」の質問に肯定的な回答をした割合は、72.3%、「理科の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した割合は、75.1%といずれも県・全国と比べて高い。
- 「観察や実験を行うことは好きか」との質問に肯定的な回答をした割合は、88.3%であり、県・全国と比べて高い。
- 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」の質問に肯定的な回答をした割合は、64.3%であり、県・全国と比べてとても高い。
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問に肯定的な回答をした割合は、57.3%であり、県・全国と比べてほぼ同じか高い。

<規範意識、自己有用感等>

- 「自分には、よいところがある」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、81.3%であり、県・全国と比べて高い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、80.3%であり、県・全国と比べて低い。

- 「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、77.0%であり、県・全国と比べて高い。
- 「学校の規則を守っているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、96.3%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、97.2%であり、どちらも県・全国と比べて少し高い。

<学習習慣等>

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、57.7%であり、県・全国と比べて高い。
- 「家で、学校の授業の予習・復習をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は、47.0%であり、県・全国と比べてとても低い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に2時間以上勉強する」と回答した割合が、41.8%であり、全国と比べて高いが、県と比べると少し低い。
- 月曜日から金曜日で、「1日に30分以上読書をする」と回答した割合が、27.7%であり、県・全国より少し低い。「全くしない」と回答した割合は、45.5%であり、県・全国と比べてとても高い。

<基本的な生活習慣等>

- 「朝食を毎日食べているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は93.0%であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は72.8%、「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は90.6%であり、どちらも県・全国と比べてほぼ同じ。
- 「家の人と学校での出来事について話をしているか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は82.1%であり、県・全国と比べてとても高い。

<地域や社会に関わる活動の実施状況等>

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は63.4%であり、県・全国と比べて少し高い。
- 「新聞を読んでいるか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は18.3%であり、県・全国と比べて高い。
- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見るか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は84.1%であり、県・全国と比べて低い。

2 杵築市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

(小学校)

- 児童の学習意欲の向上を図る。
 - ・指導事項にそった基礎・基本の定着。
 - ・学習場面で自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動の設定。
 - ・学びを実感できる授業づくり。
 - ・学習で得た知識や技能を活用する、教科横断的な発想と実践。

- 読書への興味・関心の向上を図る。
 - ・授業における学校図書館の活用。
 - ・並行読書等の推進のための書籍の充実。

- 地域や社会への興味・関心を深める。
 - ・地域教材や地域人材の活用の推進。
 - ・学校から地域への貢献を意識した行事の取組推進。

- 安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。
 - ・校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用推進。

(中学校)

- 生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ・指導事項にそった基礎・基本の定着。
 - ・学習場面で、課題解決に向けた話し合い活動の設定。

- 読書への興味・関心の向上を図る。
 - ・授業における学校図書館の活用。
 - ・生徒会活動と連携した読書の推進。

- 地域や社会への興味・関心を深める。
 - ・地域教材は地域人材の活用の推進。

- 安心できる学校生活の構築と自尊意識の向上を図る。
 - ・校内での相談体制の再確認と、SC・SSW等の活用推進。
 - ・評価の目的を再確認し、指導事項にそった評価を生徒にしっかり返す。

【 杵 築 市 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（%）（ ）は全国の数値

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	90.0 (83.6)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100 (93.0)

<カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	90.0 (94.7)
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	90.0 (94.9)

<教職員の資質能力の向上>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (99.3)
教員が、他校が外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	100 (97.4)
学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100 (97.5)

<規範意識・自己有用感等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	80.0 (89.4)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (96.5)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数共通）	100 (97.2)
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数共通）	100 (91.6)

中学校：学校質問紙

※数値は「そのとおりだと思う・どちらかといえば、そう思う」等の肯定的回答の集計（％）（ ）は全国の数値

<主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100 (80.8)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100 (92.6)

<カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100 (90.2)
生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100 (93.1)

<教職員の資質能力の向上>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	100 (98. 1)
教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	100 (95. 5)
学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100 (95. 6)

<規範意識・自己有用感等>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100 (94. 6)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100 (95. 0)

<家庭学習>

学校質問紙の質問	学校質問紙回答
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／数学共通）	100 (91. 9)
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／数学共通）	100 (87. 1)

2 杵築市の学校質問紙調査の結果をふまえて

(小学校・中学校共通)

- 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善は進み、カリキュラム・マネジメントもおおむね確率されてきている。その一方で、十分確立されていない学校もあることから、今後も継続した取り組みを行っていく必要がある。
- 教職員の資質能力向上の取組は確立されている。
- 落ち着いて授業に取り組むことができている面が見られる。児童・生徒が安心して過ごすことができる学校の構築が引き続き必要である。
- 家庭学習についての働きかけや教職員の共通理解はできている。

◇今後もめあて・ねらいの明確にした授業づくり、評価規準の作成と評価の在り方、C評価の児童生徒へのフォローは必須の取り組みとして継続していく。